

## (1) 資源の保護・増殖を図ります！！

### 1) 資源の保護・増殖

#### 【現状と課題】

地球温暖化等による急激な気候変動は、自然界にさまざまな影響を及ぼします。

河川に生息する水産動物も急激な環境の変化により減少が進むことから、資源の増殖を図るための種苗の放流は欠かすことができません。

#### 【5年後の目標】

#### 放流種苗

(平成22年度) 4種 ⇒ (平成28年度) 4種

#### 【展開する施策】

水産資源の増殖を図るために、漁協などの関係団体と協力しながら禁漁区の設定等による資源の保護を行うとともに、計画的な種苗の放流により資源の増殖を図ります。

- 種苗(ウナギ、アユ等)の放流を行います。
- 餌場や産卵床の造成により、資源が増殖できる環境づくりを進めます。



ウナギの放流



産卵床の造成 (高岡川漁協)

## 2) 外来魚や有害鳥獣からの被害軽減

### 【現状と課題】

河川環境の変化とともに、外来動植物による生態系への影響が問題となっています。外来魚は繁殖能力が高く、一度放流されると駆除することは困難となります。

### 【展開する施策】

外来魚については、池干しを行う際の駆除や遊漁者が新たに持ち込まないように啓発に努めます。

また、カワウやサギなどの野鳥による食害を減少させるため、有害鳥獣対策協議会等との連携により追い払いなどの駆除対策に取り組みます。

- 外来魚を持ち込まないよう啓発に努めます。
- 有害鳥獣対策協議会等と連携して、対策に取り組みます。



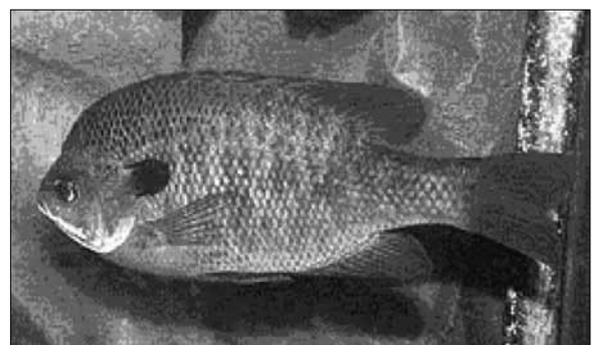
カワウ



サギ



ブラックバス



ブルーギル

## (2) 河川環境の保全を図ります！！

### 1) 河川浄化の意識啓発

#### 【現状と課題】

河川は、市民の身近なレクリエーションの場として、水遊び、カヌーやボートの川くだり、キャンプ、魚釣り、潮干狩りなど子供から大人まで慣れ親しまれてきましたが、時代の移り変わりとともに遊びの形態も多様化し、水に親しむ機会が少なくなってきました。そのうえ、山林の伐採や河川の改修により、周辺環境も大きく変わり、そこに生息する動植物にも変化が見られます。

河川は、私たちが生活していくうえで欠くことのできない豊かな水の恵みをもたらしますが、次の世代へ受け継いでいくためには環境を守る意識の醸成が欠かせません。

#### 【5年後の目標】

|          |                   |                 |
|----------|-------------------|-----------------|
|          | <b>親水イベント参加者数</b> |                 |
| (過去5年平均) | 3,420人 ⇒          | (平成28年度) 5,000人 |

【重点推進地区】 木花地区

#### 【展開する施策】

河川の環境調査や浄化活動を推進するとともに、親水イベント等を通じて河川浄化の意識啓発を行い、河川環境の保全を図ります。

- 河川の環境調査を推進します。
- 親水イベントを通じて河川環境保全の啓発に努めます。



河川環境調査



加江田川潮干狩り大会

## 2) 水産動物の生態系保全

### 【現状と課題】

河川は、水量の増減により土砂の堆積、洗掘を繰り返しながらその形を変え、干潟に生息する水産動物の生態系に大きな影響を与えます。

### 【重点推進地区】 木花地区

### 【展開する施策】

干潟で覆砂や耕うんによる人工的な環境をつくり、その変化による生態系への影響を調べ、良好な河川環境の保全に取り組みます。

- 干潟の覆砂や耕うんによる影響調査を行い、河川の良好な環境形成を推進します。



干潟の生息調査



干潟の耕うん

### 3) 疾病等の防疫対策

#### 【現状と課題】

アユの冷水病\*やコイヘルペスウイルス病\*などの疾病は、感染力も高く急激に拡大するため、まん延防止のため迅速な対応が求められます。

#### 【5年後の目標】

##### 注意喚起のための広報活動

(平成 22 年度) 0 回 ⇒ (平成 28 年度) 2 回

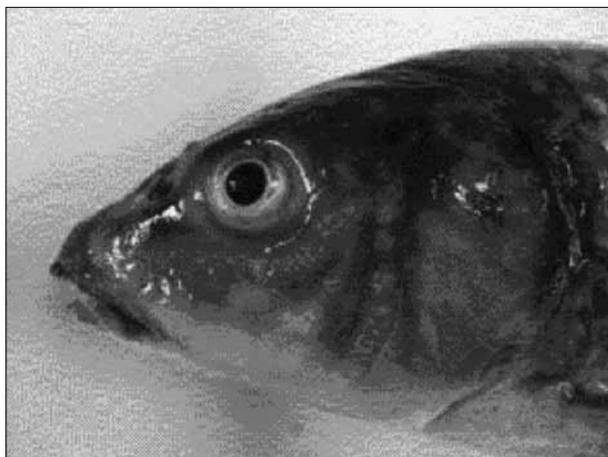
#### 【展開する施策】

日頃から、関係機関・内水面漁協と連携して河川の監視を行い早期発見に努めるとともに、新たな特定疾病が持ち込まれないよう情報収集を行い防疫体制の構築に努めます。

- 定期的な河川パトロールを実施します。
- 関係機関と連携した疾病対策に取り組みます。
- 注意喚起のための広報活動を行います。



冷水病に罹患したアユ



コイヘルペスウイルス病に罹患したコイ

#### \*冷水病

体の表面に穴が開いたり、下あごから出血したりして死んでしまう病気で細菌に感染して起きる。当初は低水温時に発生するとされていたが、その後、水温 20 度以上での発生も確認されている。

#### \*コイヘルペスウイルス病

マゴイとニシキゴイに発生する病気。現在、有効な治療法は無く、死亡率が非常に高い。感染したコイから別のコイに水を介して感染するが、コイ以外の魚やヒトには感染しない。水温 23℃～29℃で発症率が高くなるため、本市では春～秋にかけての発生が見られる。

## 4) 森林環境の保全

### 【現状と課題】

上流側で降った雨は森林にゆっくりと浸透し、豊富な栄養分をたっぷりと含んだ地下水は河川に流れ込み、そこに生息する動植物に多くの恵みをもたらします。

しかしながら、無秩序な森林の伐採や開発が行われると、大量の雨水は、浸透できないまま山肌の土砂を押し流し、一気に水環境を悪化させます。

### 【展開する施策】

「森は海の恋人」\*と言われるように、河川の水質は、森林の環境と密接な関係にあり、資源の増殖に大きな影響を及ぼすことから、森林関係者等と連携しながら、森林及び河川環境の保全に取り組みます。



土砂流入による濁水河川



森林の保全活動

#### \*「森は海の恋人」

宮城県気仙沼市で牡蠣養殖業に従事する畠山重篤氏が海の環境悪化を食い止め、豊かな海を作るには上流の森が重要だと提唱。1989年に近隣の漁民たちと「牡蠣の森を慕う会」を結成し、気仙沼湾に注ぐ大川上流の室根山に広葉樹の植樹を行った。以後、毎年5月に大川流域の森で「植樹祭」を行い、これまで3万本の木を植えている。